



生活支援体制整備事業

お互いさま ひろお通信

「地域づくりから育つひろおの支え合い」

第16号 2020年12月

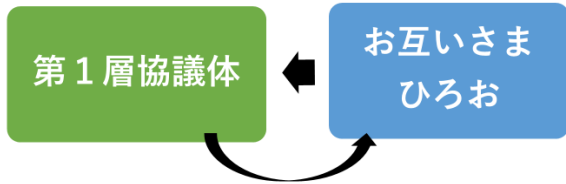
11月10日 第1層協議体 お互いさま ひろお合同開催

今回は初めての試みとして、第1層協議体と“お互いさま ひろお” 合同で開催致しました。両者の役割や関係性は図1の通りになっていきます。今回は『宅配便利帳』と『広尾町に適した自然な見守り』2つのことについて話し合いました。宅配便利帳については、「役立つと思う」「免許を返納したら使ってみたい」という意見がでていました。

第1層協議体と“お互いさま ひろお” 連携の目的

“お互いさま ひろお”で出てきた意見やそれぞれの立場で感じていることをふまえ、地域に必要な社会資源(サービス等)を検討します

普段の生活、何気ないつながらで気づいていることや感じていること、自分たちにできそうなことを話し、広尾町にあった支え合いの形を考えます。



両者は相互に連携し協力する関係。広尾町の支え合いを広げ地域力を高めることを目指します!!

図1



一方、「女性は特に自分の目で商品を見て買いたい」「健康のために歩いている人も多い印象がある」との意見も出ており、実際にお店に行き、少しでも歩くことで健康の為にもなるという観点から、宅配便利帳とは別の視点で買い物支援を検討することも課題として浮かび上がってきました。さらに、宅配便利帳の校正の部分についても意見をいただき、より見やすい形になりました。

次に広尾町に適した自然な見守りについての意見を一部ご紹介いたします。

- 友人であれば気軽に電話を掛けたりできるが、そうでないと難しい。
- 「私は元気です」という目印に、他町村の事例では赤や黄色の旗を毎日玄関に出す方法を取っているとある。
- 見守りが必要な人が一目でわかるよう目印を身に付けてもらうのはどうか？一方、当事者は敏感に嫌悪感を抱くこともある。目印を持たせてもすぐに外してしまう可能性があるのではないか？
- 町内会単位での見守りもいいが、もっと小規模の方が自然な見守りは育みやすいのではないか？
- 私は知人から買い物頼まれ届けることがあるが、逆にお裾分けもしてくれる。お互いが助けられている関係性だと支え合いの関係が作りやすいのではないか？

以上のように自然な見守りを育む方法はたくさんあるのではないかと思います。しかし、それを実現させるには多くの人の理解が必要で、見守りが必要な当事者が嫌悪感を抱くことなく、当たり前のように生活できる環境を整備する事が求められます。

今後みなさんの意見をヒントにしながら、誰にとっても住みやすい町づくりをすすめていきたいと思えます。今回の意見にも出ていましたが、みなさんがすでに実践している支え合い活動の中にも、今後の地域づくりのヒントが多く隠されています。ぜひ、私はこんな活動しているという声を届けてほしいです。